

池井戸潤
Jun Ikeido

ガイドブック

ハヤブサ 消防団



9月5日(月)
発売

のどかな田園地帯に隠された——真実。
ミステリ作家VS連続放火犯!?

©ご自由にお持ちください。

集英社 文芸単行本

主な登場人物

三馬太郎

35歳のミステリ作家。東京から亡き父の実家に移り住み、消防団に入団。穏やかな性格で故郷への愛が強く、人間観察力がある

宮原郁夫

分団長。工場勤務で大柄。負けず嫌いな

森野洋輔

副分団長。役場の土木課に勤めている

藤本勘介

太郎と同年代。工務店勤務で釣り好き

徳田省吾

一徳堂(洋品店)店主。気弱な性格

中西陽太

大工。背は低い、が、がっしりした体型

山原賢作

林業会社経営。痩せ型で眼光が鋭い

たち き あや
立木 彩
映像クリエイター

え にし たす く
江西佑空
随明寺住職

のぶ おか しん そう
信岡信蔵
町長

よし だ なつ お
吉田夏夫
郵便局長

なが の せい いち
永野誠一
警察署長

なか やま だ ひろし
中山田 洋
編集者

た むら とみ いち
田村富一
フリー記者

こう さい みち はる
高斎道春
オルビス・テラエ騎士団教祖

すぎ もり のぼる
杉森 登
オルビス十字軍総長



ハヤブサ地区に移住してきたミステリ作家を
待ち受けていたのは、連続放火事件だった。
果たしてその真相とは？

東京での暮らしに見切りをつけ、亡き父の故郷である
ハヤブサ地区に移り住んだミステリ作家の三馬太郎。
地元の人の誘いで居酒屋を訪れた太郎は、消防団に勧誘される。
迷った末に入団を決意した太郎だったが、やがて
のどかな集落でひそかに進行していた事件の存在を知る――。

池井戸 潤『ハヤブサ消防団』

9月5日(月)発売

文芸単行本●定価1,925円(税込) [電子書籍版も同時配信]



『ハヤブサ消防団』特設サイト

◀ <https://lp.shueisha.co.jp/hayabusa/>

池井戸 潤



ハヤブサ消防団

物語の舞台、ハヤブサ地区ってどんなところ？

中部地方の標高五百メートルの高原にある地区。人口は約千人。豊かな自然と食文化、温かみのある方言が魅力。

イラスト／唐仁原久

四季折々の情景

春

春の風がそよぎ木々の枝が揺れ、雲がのんびりと空に浮かんでいる。その空が広い。(P14)



「ツチノコなんか
おるわけねえわ、
たわけ」

「このところ火事が
続いたやら」

「なんでも
消防団に頼みやあ
ええと思っとるな」

「あんたが、東京から
来んさった太郎くんか」

夏

蛍が空を舞うと、鮮やかな緑色の輝きがすっと糸を引くように視界を横切り、闇に溶けていく。(P207)



方言

秋

広葉樹は熟れ、ひと筋の風に葉を散らしては、赤や黄の湿った絨毯を足下に敷き詰めていく。(P356)



冬

この冬の季節に花をつけているのは寒椿かんてんだろう。その隣に植わっているのはミツバツツジと、背の高さからしてヤマボウシだろうか。(P456)

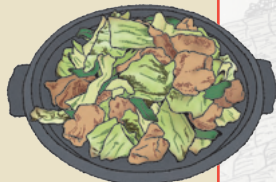


ご当地料理

『ハヤブサ消防団』に登場するお店「居酒屋△(サンカク)」は、消防団員たちの憩いの場になっている。そこには、おいしいご当地料理の数々が！

鶏チャン

鶏肉に醤油や味噌などの下味をつけて甘辛く焼いたもの。「居酒屋△」では内臓も入っていて、もつ煮込みのような味わい。



へボ料理

へボ(クロスズメバチ)の幼虫を使った郷土料理。醤油や砂糖、酒で煮る甘露煮が定番。昔の人々にとって貴重なタンパク源だった。



アブラゲ

醤油味の油揚げ。トースターやフライパンで焼いて食べると香ばしくておいしい。「居酒屋△」の定番メニュー。



実際に新聞で紹介された

消防団の活躍の数々 協力：朝日新聞社



学生消防団、懸命に訓練中！

近大、活動広げ団員増

(朝日新聞2021年12月18日朝刊／和歌山県)

11月下旬、「紀の川市消防団本部近畿大学部」の学生団員らが、近畿大学和歌山キャンパスの中庭で放水訓練をおこなった。研究やバイトで忙しいなか、地域のために力を尽くした。

地域の文化財、火災から守れ

石川・那谷寺で訓練

(朝日新聞2022年1月24日朝刊／富山県)

文化財防火デー(1月26日)を前に石川県小松市的那谷寺で23日、消防総合訓練があった。小松市消防団第12那谷分団の消防車も到着し、団員らがホースで放水に加わった。

創作の裏話から
消防団の実像まで。
読めば消防団に
入りたくなる!?



牧場からエミュー20羽脱走

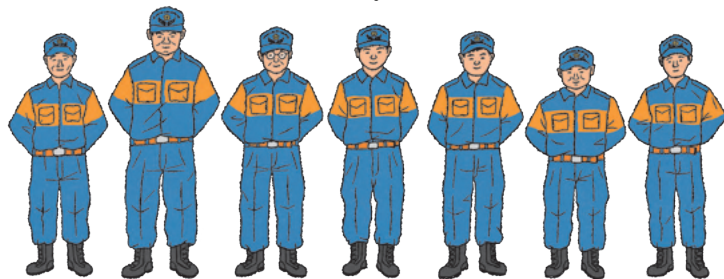
菊池市職員ら捕獲作戦・4羽まだ見つからず

(朝日新聞2021年10月8日朝刊／熊本県)

7日朝、熊本県菊池市重味の「熊本県菊池エミュー観光牧場」から豪州原産の大型鳥類・エミュー約20羽が脱走。市職員、消防団員ら計約30人態勢で捜索と捕獲にあたった。



▲「ハヤブサ消防団」のエムブレム。



消防団ってこんな存在！
消防団は地域防災の要で、なくてはならない存在だ。火事、風水害、地震などが起きたときに現場に駆けつけ、消火や救助活動をおこなう。消防署の少ない地域では、活動の最前線を担うことも。

消防団員は、常駐の消防職

員とは異なり、普段は他の仕事をしている。基本的にボランティアだが手当も出る。その歴史は古く、江戸時代の町火消が起源だといわれている。しかし、全国の消防団員数は年々減少しており、国や自治体はPR活動をおこなっている。

著者と第45代消防庁長官・内藤尚志氏との対談はこちら！

◀ <https://lp.shueisha.co.jp/hayabusa/seidoku.pdf>

池井戸 潤



ハヤブサ消防団



